

地方創生：雇用創出・地方で生活する 座談会② | ターン・Uターンの自営業者に聞く。 新冠に住んで思うこと、仕事をして考えること、まちの魅力など！

都会を出て地方で生活したい。生まれ育った地元に戻って生活したい。そのような声を良く聞きます。しかし、地方には仕事が無いという現実もあります。地方で生活していくためには、もちろん仕事が必要ですが、町内には、移住して自ら事業を始めた方がたくさ

んおり、また、最近では、親の店や牧場を継ぐというケースも増えてきています。今月の座談会では、町内で自営業を営む方々にお集まりいただき、仕事をする中で感じていることや、まちの魅力などについて意見交換を行いました。

座談会に参加していただいたのは、新冠町に移住し、これからカフェを始め、井上さんと、新規就農で酪農をしている益子さん、農業後継者としてUターンした小野寺さんと、親の店を継ぎ、現在商工会青年部部長の橋本さんの4名で、ここに企画課職員2名が加わり、2時間の意見交換を行いました。

移住のきっかけ・まちの魅力

職員 井上さんは、8月から西泊津でカフェを始めようですが、なぜ新冠に移住先を選ばれたのですか？

井上 一番の理由は、自分も妻も馬が好きだったからです。妻は20年前から馬を見に新冠に通っていました。これまでは大阪でカフェを経営していましたが、カフェの経営だけを考えると、関西でお店を出す方が売り上げはいいのですが、何十年後かに店を辞めた後、そこに住み続けることを考えた時に、新冠に住みたい



井上 貴司
いのうえ たかし
・年齢：40歳
・住所：西泊津
・出身：山口県
・仕事：カフェ「ささふら」経営
・家族構成：妻との二人暮らし

と思いましたが、鉦路に移住した人と話しをした時、「仕事のことを考える前に、まず自分の好きなところに住むことが大事。自分の好きな風景に住み、そこで何をするか考えればいい」と言われて移住を決めました。

小野寺 「そこに住みたい」という理由で移住できる勇気がすごいですね。井上 町内で移住できる土地を探していた時に、今の西泊津の土地を紹介していただきました。本当に景色が良く、この景観が気に入ってすぐに決めました。

職員 益子さんは、約20年前に新冠にいられたそうですが、どのような経緯で移住されたのですか？

益子 元々は会社勤めでしたが、22歳の時に酪農従業員の募集広告を見て、旧門別町の里平地区に引っ越してきました。

趣味でバイクに乗っていたことや、ドラマの北の国からの影響もあり、北海道には漠然とした憧れがありました。最初は、北海道で一生暮らすとは思っていません



小野寺 誠
おのでら まこと
・年齢：32歳
・住所：美宇
・出身：新冠町
・仕事：そ菜農家
・家族構成：妻と子ども一人

んでしたが、仕事の関係でアメリカに研修に行ったり、メキシコで働いたりしているうちに、酪農をして生活したいと思うようになり、30歳の時に、新冠で酪農ヘルパーをしながら町内で就農先を探しました。その時は町内に就農したいという気持ちが強かったのですが、就農先を見つけたことができず、十勝の方で就農できるという話しを聞き、新冠から離れることになりました。

しかし、いざ引っ越してみると、自分の想像していた状況とは違い、役場や農協なども酪農の新規就農に対し、あまり協力的ではなく、行き詰ってしまいました。

そして、自分が本当に住みたい場所はどこかを考えたとき、改めて新冠の魅力に気づかされ、新冠にもう一度戻ることを決め、その後、戻ってからは、トントン拍子に話しが進み、3カ月後くらいに就農の話しをもらい、翌年4月には今の場所に就

地方創生：雇用創出・地方で生活する



益子 浩
ましこ ゆたか
・年齢：42歳
・住所：美宇
・出身：茨城県
・仕事：酪農経営
・家族構成：妻と子ども二人

橋本 新規就農者も含め、町外から人を連れてくるには、やはり何かアピールするものが必要ですね。新規就農を希望する人たちなどを集めて、新冠の農業を知ってもらうツアーのようなものがあってもいいですね。

橋本 酪農という、道東とか十勝というイメージが強いですが、益子 今では、酪農地帯でも人手不足

農することができました。本当にタイミングが良かったと思います。

職員 新冠の魅力とは何ですか？

益子 新冠は、他の町と比べてよそ者に優しいと思います。

戦後の開拓者が多く、しかも、その開拓者たちがまだ健在なので、新しく入って来る人に対して、よそ者という感覚を持たないのかもしれない。とにかく、よそ者が入りやすいまちだと思います。

橋本 新冠の魅力は「人」ですか？

益子 自分は完全に「人」でした。

新規就農について

橋本 新規就農は、移住するとすぐに始められるのですか？

益子 ある程度の自己資金が必要になります。

井上 自分も以前は農業をやりたいと思っていましたが、その時は一千万円規模の資金が必要になると言われて諦めました。

益子 就農者を増やすには、今後離農していく農家を把握するというのも、ポイントの一つだと思います。

農家は定年が無いことで、ぎりぎりまで働いて、突然辞めてしまう人が多く、自分も酪農家になりその気持ちも理解できるのですが、それだと断ち切れてしまいますよね。新規就農者や子どもたちが計画的に引き継いでいくことを考えることも大事かと思っています。

橋本 そうですね。そこは、僕たちも含め、自営業者は同じですね。

やめる時期がわかれば、準備ができるし、計画的に段取りができます。

益子 また、すぐに就農できなくても、就農準備ができる仕事があることが重要だと思います。

今の酪農ヘルパー制度は、町内の酪農家と知り合うことができるし、色々な情報も入ってきます。また、安定した収入も得られるので、いい制度だと思います。

橋本 新規就農者も含め、町外から人を連れてくるには、やはり何かアピールするものが必要ですね。

新規就農を希望する人たちなどを集めて、新冠の農業を知ってもらうツアーのようなものがあってもいいですね。

益子 実は、有志が集まり「一度来て！観て！新冠」という新規就農希望者のイベントを企画して、今年で4年目になります。

実行委員には、自分も含め、新冠で就農した人や農業支援員がいるのですが、そのツアーの参加者が昨年は0人で、今年もまだ申し込みがない状況です。

井上 自分は大阪で開かれていた「新・農業人フェア」で平取町と新ひだか町を知りました。会場には本当に多くの来場者がいて、地方に興味を持っている人がたくさんいることを知りました。

益子 「新・農業人フェア」は、東京・大阪・札幌で開かれていると思いますが、全国の町のブースがある中で、新冠のブースを訪れる人は、多くはないみたいですね。

新冠は馬産地としては名が知れていますが、酪農や畑作といったイメージがあまりないと思います。酪農という、道東とか十勝というイメージが強いですが、益子 今では、酪農地帯でも人手不足



橋本 貴美
はしもと たかよし
・年齢：37歳
・住所：北星町
・出身：新冠町
・仕事：セイコーマート店長
・家族構成：妻と子ども三人

で、新規就農者を探しているのですが、まともに対抗しても難しい状況です。先日、清水町に行ったのですが、道東では大規模経営の農家が多く、100頭前後の牛を飼っているそうです。我が家は二十数頭しかいないので、すごい違いですね。

しかし、最初から広大な土地と100頭前後の牛を飼うとすると、億単位の資金が必要になるので、なかなか就農するのが難しいとの話しでした。

新規就農を希望する人たちは、ゆつくりとした田舎暮らしを楽しみたいと考えている人がたくさんいて、そういう人は、億単位の資金をつぎ込んで必死に働くことを望んでいるのではなく、20〜30頭規模でもいいので、のんびり暮らしながら生活したいと考えています。また、自分は、単純に飼育頭数が増えれば収入が上がるという考えは持ってなく、自分の牧場も小規模で